



中央教育審議会初等中等教育分科会 第3回 小中一貫教育特別部会

平成26年9月19日

5・4制施設併用型

小中一貫教育校



京都市立 東山泉小中学校

校長 村岡 徹



地域の子どもは
地域で育てる



小中一貫教育は
京都市のすべての
中学校区で実施中



歴史の継承と開校

- 一 橋小学校 ... 144年間の歴史
- 月 輪小学校 ... 92年間の歴史
- 今熊野小学校 ... 83年間の歴史
- 月 輪中学校 ... 67年間の歴史



平成26年4月
東山泉小中学校へ





学 校 教 育 目 標

意欲をもって学び、
自らの将来を拓く児童・生徒の育成

学に親しみ、志を高め、
一人一人の未来を拓く小中一貫教育の推進

校 是



向学：学問に向き合うこと

才知：才能と知恵

立志：未来の目的を定めること



めざす子ども像

1st Stage

ファーストステージ

西学舎

1年生～5年生

すすんで学ぶ子ども
よく考える子ども
ゆめを話することができる子ども



2nd Stage

セカンドステージ

6年生～9年生

東学舎

自ら学び、将来を拓く力をもって、
夢と目標を語ることができる子ども





児童・生徒・学級数

西学舎

1年生～5年生：403名
13学級＋育成2学級

東学舎

6年生～9年生：292名
10学級＋育成1学級

合計：695名

東山南部⇒東山泉小中学校



年・月	統合・小中一貫校に向けて	検討・協議・決議・その他
H18	3小PTA小規模問題検討委員会設置	小学校統合を視野に入れた検討開始
H19	3小PTAで検討継続	3小学校合同PTAニュース発行
H20	小規模校問題学習会を開催	統合校・小中一貫校の見学
H21.3	3小学校PTA総会決議	「小中一貫校の新設を目指した、学校統合の早期実現」を求めます。
H21.9	東山南小中学校統合協議会が発足	小中一貫校開設に向け始動
H22.1	東山南小中学校統合協議会	施設併用型小中一貫校を合意
H22.6	新校舎建設ワークショップ開催	校名選定協議等始まる
H23.9	新校名「東山泉」・標準服決定	市教委に新校名要望書提出
H24.4	市教委に教育企画推進室設置	学校統合推進室、教育環境整備室と連携
H24.5	第1回開校準備主任会	校長・教頭・教務・研究・生徒指導
H24.5	東山泉小中学校統合協議会	標準服6年生から着用を決定
H25.2	東山泉小中学校統合協議会	校歌・校章を決定
H25.10	保護者説明会	学校案内発行・新校歌披露

「東山泉」のコンセプト



- キャリア教育推進のもとに学力向上を図るために、5・4制小中一貫教育を行う。
- 義務教育は子どもたちのキャリア発達、人間形成への通過期間と捉える。
- 9年間の義務教育を一つの期間と捉えるために、小学校と中学校を繋ぐことが必然となる。



“繋ぎ”の具体例

- ①学級担任制と教科担任制
（小中を繋ぐ）
- ②学びのスタンダード
（授業を繋ぐ）
- ③シラバス「学びのみちしるべ」
（9年間の学習を繋ぐ）
- ④生徒指導
（東西を繋ぐ）



“繋ぎ”の具体例①

「学級担任制と教科担任制」 (小中を繋ぐ)

- 6年生：国語，社会，算数以外は中学校籍教員による教科担任制
- 5年生：理科，家庭，音楽，英語活動で教科担任制
- 英語活動を1年生から早期開始をし，すべて中学校籍教員による指導



“繋ぎ”の具体例②

「学びのスタンダード」 (授業を繋ぐ)

- ・小学校と中学校の授業，各教科の授業を繋ぐ「学びのスタンダード」として，児童生徒が主体的に話し合いや発表を通して，思考力，判断力を鍛える授業づくりに取り組む。



“繋ぎ”の具体例③

「学びのまちしるべ」 (9年間の学習を繋ぐ)

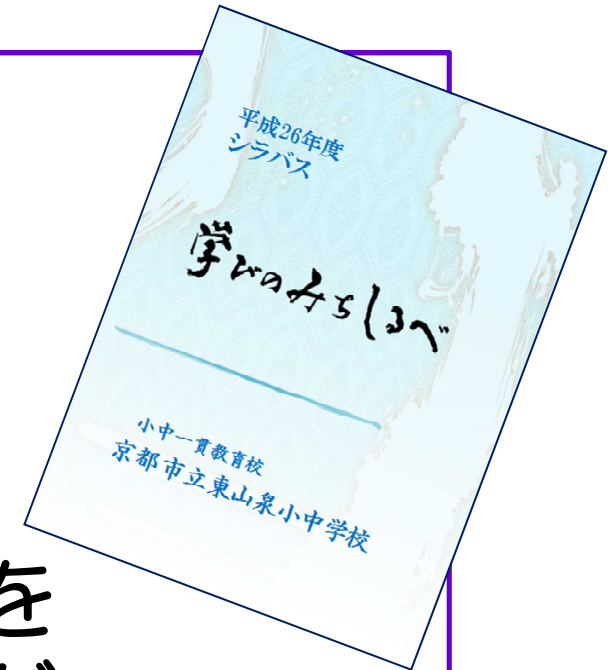
- ・シラバス「学びのまちしるべ」を作成
- ・教育課程の編成は，全学年，全教科，領域がシラバスに基づき授業を行う
- ・内容は「目標」「学習内容」「評価計画」「言語活動の内容」「ご家庭の方へ」の欄を設置
- ・6年生の全ページに「50分授業の工夫」欄
- ・シラバスは毎年，編集し，配布

「シラバス～学びのまちしるべ～」



- 何のために（学習目標）
- 何を（学習内容）
- どのように（学習方法）
- いつ（学習時期）

を示した年間学習計画を
開校前年度に，全教員が
参画して作成



学びのみちしるべ

学年

教科, 領域

学習目標

単元名
学習内容

評価について

言語活動の内容

ご家庭の方へ

50分授業の工夫

6 年生

社会 科

目標	我が国の歴史と政治及び国際社会における我が国の役割に関心をもち、歴史的に調べ、我が国を愛する気持ち、世界の国々の人々と共に生きていくことが大切だという自覚をもつ。 我が国の歴史や政治及び国際理解に関する社会的な出来事を知り、地図や地球儀、年表などの基礎的な資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったり、まとめたりする。 国や社会の発展に貢献した人物や優れた文化遺産、生活と政治の関わり、関係の深い国の生活や国際社会での役割について理解する。
----	---

期 月	学 習 内 容	備考	時数
I	4 歴史博物館へ行ってみよう 縄文のむらから古墳のくにへ	身の回りの歴史を調べて、カードや地図にまとめる。 農耕の始まりが人々の生活や社会に与えた変化をたどる。もろからくへへそして大和朝廷により国土が統一されたことを理解する。	2 8
	5 天皇中心のくにづくり	大倭文化の摂取、大化の改新、大仏作りの様子、貴族の生活をもとに、天皇を中心とした政治が確立されたことや日本国の文化が起ったことを理解する。	9
	6 武士の世の中へ 今に伝わる室町文化	源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、足利家の戦いなどをもとに、武士による政治がはじまったことを理解する。 室町文化の特色や茶室の文化に感じられることについて考える。	6 4
	7 戦国の世から江戸の世へ	キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国の様子、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことを理解する。	4
	8 江戸の文化と新しい学問	歌舞伎や浮世絵、国学や蘭学をもとに、町人の文化が栄え新しい学問が起ったことを理解する。	10
II	9 明治の国づくりを進めた人々	開港場の開港、明治維新、文明開化などをもとに、富国強兵や四民平等などの政策を行い、欧米の文化を取り入れた近代化を進めたことを理解する。	6
	10 世界に歩み出した日本	日清・日露戦争の勝利や条約改正、科学の発展などをもとに、我が国の国力が充実し国際的地位が向上したことを理解する。	7
	11 長く続いた戦争と人々の暮らし	第二次世界大戦の敗戦と終戦による国際社会での地位の低下を受け、アジア、太平洋諸国、諸地域に大きな被害を与えたことを理解する。	7
	新しい日本、平和な日本へ まちでくらす人々たち	戦後日本が国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことを理解する。 地方にありながら国際社会とつながり、まちづくりの発展について考える。	6 1
III	1 わたしたちの暮らしと日本国憲法	日本国憲法の意義や国際社会の憲法を比較していることや現在の民主主義が日本国憲法に基づいていることを理解する。	5
	「学習のまとめ」	「人類共通の願い」	1
	2 日本とつながりの深い国々	日本とつながりの深い国の文化や習慣などについて調べ、異なる文化や習慣を互いに理解しあうことが大切であることを理解する。	8
	3 世界の未来と日本の役割	我が国の国際交流や国際協力の様子、国際連合の働きについて調べ、世界平和の大切さと我が国が世界において重要な役割を果たしていることを理解する。 日本と世界が関わり合う国際社会について、自らの考えを表現できるようにする。	6 2
総時数			105

評価について	50分授業における工夫
○社会的事象への関心・意欲・態度 「授業での学習活動」「提出物」「レポート課題」「定期考査」 ○社会的な思考・判断・表現 「授業での学習活動」「提出物」「レポート課題」「定期考査」 ○観察・資料活用技能 「授業での学習活動」「提出物」「レポート課題」「定期考査」 ○社会的事象についての知識・理解 「授業での学習活動」「提出物」「レポート課題」「小テスト」「定期考査」	○導入の工夫。 ○小テストによる知識理解。 ○調べ学習の充実。

言語活動の内容	ご家庭の方へ
発言・発表について（話し合いについて） 話し方や話し方（聞き方）の仕方を身に付けよう。発言する時は聞いている人の目を向き、できるだけ前に発言した人の内容とつなげるようにしよう。発言する人の顔を向け、自分の考えと比べながら聴きよう。（聞きましよう。） ノートの記述（表現）について まず黒板に書かれたことを正しく書き写し、読み直そう。読み直した後に「学習のまとめ」と学習したことをノートに記述しよう。（学習のまとめ）は書きながら進めよう。自分が書いたこと（事実）と自分の考えたこと（考え）を整理して書きましよう。 グループ学習での表現について テーマを決めよう。解決しようとする問題をききとることが大切。自分で資料を集めて調べることから始めるテーマでしよう。グループのみんなと話し合ってから、自分が考えたことを発表しよう。他組からの質問に答えよう。どのように書き表せばよいのかを考えよう。誰かに分かりやすく伝える工夫をしよう。	テレビや新聞等の記事に出てくる歴史や政治、憲法に関する内容について、教科書や資料集を使って調べたり、内容を簡単にまとめ、感想を書いたりしよう。歴史年表や日本地図・世界地図を家庭内に掲示するようにしよう。社会科ノートには関心をもち、丁寧な書きこみができているかを見てほしい。前ましの言葉が大切。家族と一緒に外出する際には、地図や歴史に関する本を使って、町にある歴史的建造物や神社仏閣、石碑などについて会話をしよう。写真や文庫、スケッチによる記録をすることもおもしろいものです。自由研究には、学校の教員とも相談しながらぜひ取り組ましよう。真実に取り組む自由研究の他にも、普段の自由勉強で取り組むものも考えられます。





“繋ぎ”の具体例④

「生徒指導」

（東西学舎を繋ぐ）

- * 子どもたちの健全な成長を促し、自ら自己実現を図ることの意義の共有
 - ・児童会と生徒会を一体化
 - ・6年生の部活動は、東西学舎双方から選択

“6年生”の具体例

- ①教科担任制
- ②定期考査
- ③部活動





“6年生”の具体例①

「教科担任制」

- ・6年生：国語，社会，算数以外は中学校
校籍教員による教科担任制
- ・担任は基本的にT2として関わる

但し，道徳・特別活動・総合的な学習の
時間等を加えて，担任が指導する時数
は週時程数の過半数となっている



“6年生”の具体例②

「定期考査」

- ・年間5回の定期考査を，中学生と同形式，同形態で実施
- ・実施教科は段階的に拡大
- ・テスト1週間前は，中学生とともに，自学の取組を行う
- ・単元テストは別途実施



“6年生”の具体例③

「部活動」

- ・週2日(月・水): 東学舎部活動
- ・週2日(火・金): 西学舎部活動
(4～6年生)
- ・上記を自由選択
 - * 西学舎部活選択児童: 37名／80
 - * 東学舎部活選択児童: 54名／80
(両方選択21名を含む)



“施設併用”のメリットとデメリット

(メリット)

- ステージごとに学舎が分かれていることで、それぞれのねらいを明確に示すことができる
- 1stステージ:45分授業, 2ndステージ:50分授業, の区別がつけやすい
- 体育館, グラウンド, 特別教室等の施設が, 双方にあるため, 充実した教育環境が整う
- 異学年交流, ステージ交流に計画と, 周到的な準備をもって実施するために, 効果が期待できる。



“施設併用”のメリットとデメリット

(デメリット)

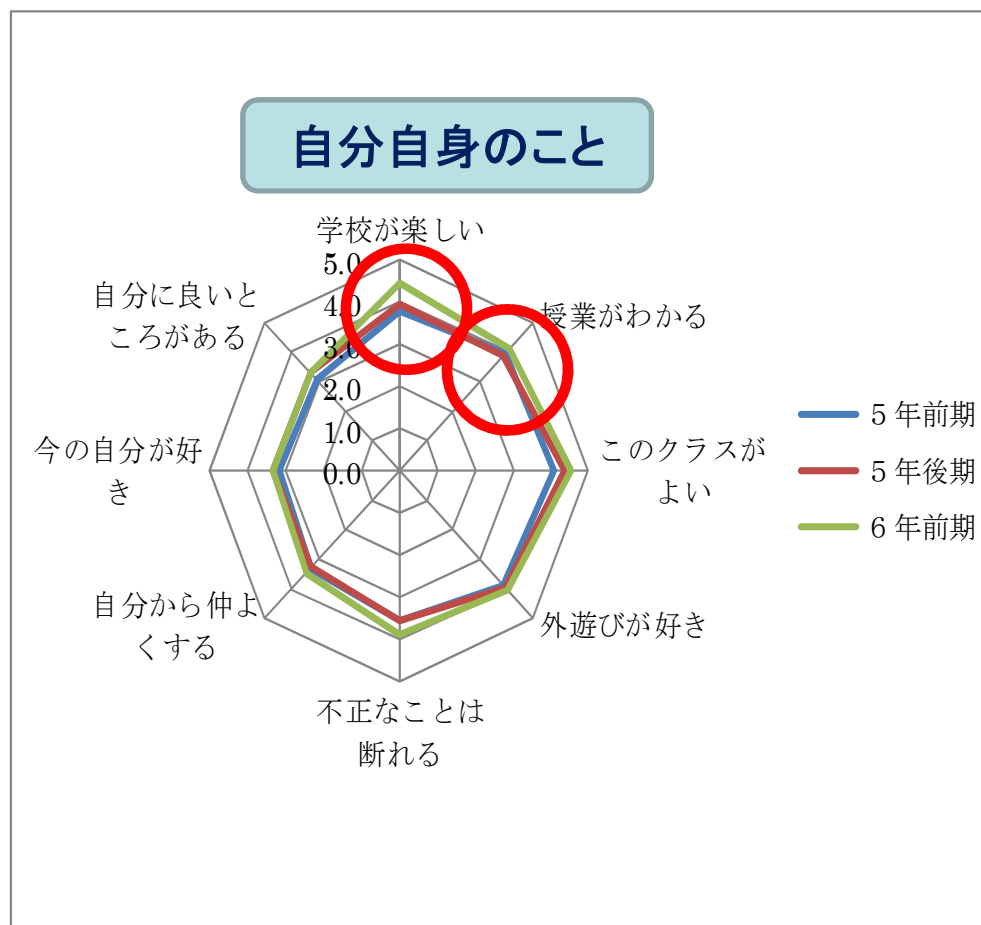
- ・児童生徒の学舎間移動に安全面を最優先し，1単位時間を充てる必要がある
- ・教科担任制で行う授業に，教員の学舎間移動が伴い，時間割編成が複雑になる
- ・学期期間は合同の職員会議，研修会の招集，開催が困難である。



“6年生”にみられる効果として

社会性変容 調査から

自分自身のこととして、「学校が楽しい」と答えた数値が、大きく伸びている。6年に進級と同時に中学生と2ndステージで学校生活を送っているが、順応し、満足していることが窺える。また、多くの教科で教科担任制の授業を受けているが、「授業がわかる」も少しであるが数値が伸びた。

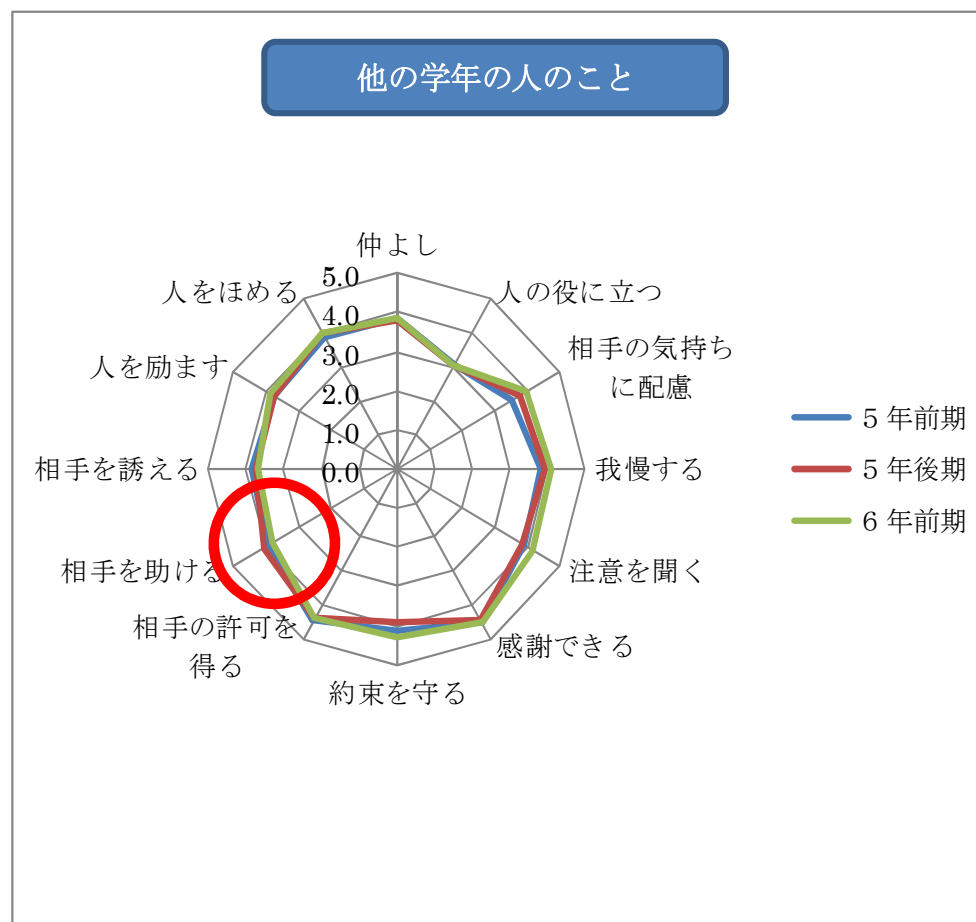




“6年生”にみられる効果として

社会性変容 調査から

他の学年のことでの「相手を助ける」に関しては数値が少し落ちている。これは6年生が2ndステージにおいては下の学年であるための意識の表れととることができる。





おわりに…「実事求是」

小中一貫教育校に勤務する小学校籍，中学校籍双方の教職員には，既存の小学校や中学校ではない学校として，小中一貫教育校をデザインしていくことが要求され，今までの日常的教育活動に加え，非日常的な思考や判断が必要となる。このことは，戸惑いを生むこともあるが，教職員としての使命感から，創造意欲を掻き立てる効果，有効性が見えてきている。

本校のシステムにおいては，倣うことができる先例校の取組，実践があまり見当たらないことを敢えて是とし，今後も目の前の子どもの実態，変容の様子を的確に捉え，5・4制施設併用型における教育効果を引き出せるよう，非日常的効果を保つ学校経営に努める必要を感じている。